名古屋大学留学生センター地域貢献特別支援事業

「外国籍住民のための発展型防災研修の環境整備」

田　中　京　子

１．事業の目的と内容

留学生センター年報で毎年報告してきたように，外国籍研究者や留学生が全国でも特に多く活躍する名古屋大学で，これまで留学生センターを中心とした関係部局の連携により地震防災セミナーを約15年継続して行なってきた。特に近年では，2007年度の科学技術振興調整費，および2008度の教育研究改革・改善プロジェクト経費により充実した研修を行っており，この地域で進みつつある学術・生活環境の多文化化を視野に入れた，発展型防災研修を開発しつつある。

2008年度のプロジェクトでは，世界５地域のリーダー格の留学生に一定の課題を実行してもらい，文化による対災害脆弱性や防災観等の一端を知り，その特徴を考察し，より高度な防災研修開発への示唆を得ることができた。

その中で，地震等の自然災害を知らない留学生・外国籍研究者にとっては，特に体験・展示施設などによる教育効果が期待できることがわかった。そのため，2009度は，地震体験や伊勢湾台風の疑似体験が可能な名古屋市港防災センターを利用した研修の内容構築および環境整備を行ない，地域住民も活用できるように，という目的で本事業を行った。

上記目的を達成するための最初の段階として，留学生センター，地震専門家，留学生・外国人研究者，港防災センターが連携して，多言語による教材を作成することになった。港防災センターの地震や風水害などの災害シミュレーションや展示を，外国籍の学生・研究者・住民が通訳の助けを借りずに理解するため，教材の内容を構築し，それを利用しやすい形にする活動である。以下のメンバーでプロジェクトを進めることになった。

委員の構成

氏　　名	所　　属	担　　当　　分　　野
田中京子	留学生センター	プロジェクトの総括・防災センターとの連携
山岡耕春	環境学研究科	専門知識の提供
岡本耕平	留学生センター	防災における多言語利用
北山夕華	留学生センター	留学生・研究者との連携
山口博史	国際企画室	専門知識の提供、学内広報

翻訳等協力者

小山ゆりえ	国際言語文化研究科	やさしい日本語翻訳・録音等
Kochar Ritu	国際言語文化研究科	英語翻訳・録音等
Iha Leandro Hideo	工学研究科	ポルトガル語翻訳・録音等
馬　小叡	国際言語文化研究科	中国語翻訳・録音等
寺田　騰	文学研究科	専門知識提供・写真撮影等

２．事業の経過

委員と協力者たちで名古屋市港防災センターを訪問し，どのような教材が最も効果的に利用できるかを検討した。現場の責任者や，名古屋市災害局とも相談し，その結果，「見学ガイド」および「音声ガイド」の２種類のガイドを作成することになった。

見学ガイドは，地震専門家である山岡委員が中心に内容を構成し，名古屋市災害局および名古屋市から委託を受けて名古屋市港防災センターを運営している「財団法人　名古屋市防火管理公社」と内容調整を行いながら作成した。現場で利用してもらうのが目的なので，現場の意見も最大限に取り入れつつ，留学生など外国籍の住民が利用しやすいようにという視点から，協力者たちと会議を持って検討し，意見を反映できるようにした。この調整には，思いのほか多くの時間が必要であった。現場の管理側の立場と，利用者側の立場では，微妙な問題が含まれている。例えば家具転倒を防ぐ方法として，金具や専用棒などのとり付けが難しいと思われる留学生たちへは，少なくとも天井の間を段ボール箱でふさぐ，という方法を伝えたいが，現場としては，不完全な方法は伝えたくないという立場であり，これらの点については現場の意見を尊重し，大学としては，セミナー等で口頭で説明していくことが必要と考えた。ガイドの中に入れる写真撮影も別途，委員と協力者たちで，名古屋市港防災センターにて行った。

見学ガイドは，日本語の原稿を「やさしい日本語」「英語」「ポルトガル語」「中国語」に翻訳し，それぞれの翻訳版について，別の協力者たちが，翻訳版から日本語版への逆翻訳による校正を行った。これにより，さらに自然な翻訳文が作成できた。デザインを経て，４種類のガイドブックが完成した。

音声ガイドについては，山口委員が中心に内容を構成し，名古屋市災害局と名古屋市防火管理公社との間で内容調整を経て，上記４言語に翻訳した。その後，録音スタジオを使用して，それぞれの言語にて録音を行った。マイクの性能や録音技術，朗読法など，専門的な技能を必要とするため，限られた予算の中でそれらを行うのには様々な工夫が必要であった。録音済みファイルを山口委員が編集し，予習用にも，現場でも使用できるようになった。

今後行う防災セミナーでは，名古屋市港防災センターの見学も組み入れ，ガイドを使用してより発展した実践的な研修を行う予定である。音声ガイドについては実験段階として使用しながら，最も使いやすい提供の方法を検討する。

３．事業の成果

以上のプロジェクト成果について，昨年度の事業と合わせて報告・考察し，課題も含めて，本紀要の「実践・調査報告」に掲載したので参照されたい。

●４言語による名古屋市港防災センター見学ガイド

←左から，日本語版，ポルトガル語版，中国語版，英語版

（↓４言語合わせるとパズル完成）

●４言語による音声ガイドは，留学生センターの次のサイトからダウンロードが可能である。

http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/info/life/clife.html#bosaisound　（日本語から４言語へ）

http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/en/info/life/clife.html#bosaisound　（英語から４言語へ）